

八王子市生涯学習審議会会議録 （要点筆記）

会 議 名	平成 26 年 1 月 八王子市生涯学習審議会	
日 時	平成 26 年 1 月 21 日（火） 午後 6 時 00 分～8 時 00 分	
場 所	八王子市生涯学習センター 第 2 学習室	
出席者氏名	委 員	三浦眞一 炭谷晃男 浅井揚三 石川智子 小倉艶子 村上ひろみ 小林正博 柴田彩千子 碓井恵夫 小宮山博仁
	事務局	宮木次長 鶴田主査 石森主事 新井学習支援課長中村生涯学習センター図書館長、村田南大沢図書館長 福島川口図書館長
欠 席 者 氏 名	岡本夢乃 鈴木啓三郎 高橋純一	
議 事 案 件	≪議題≫ ・八王子市の生涯学習の振興方策について（諮問）	
	≪報告事項≫ ・教育委員会定例会における関連事項について ・成人式の開催について	
配 付 資 料 名	・読書活動推進における課題 ・諮問に対する意見の整理 ・らいぶらりい No. 117 ・みんなの生涯学習 No. 114	

<p>会議の内容</p>	<p>1. 開 会</p> <p>2. 定足数の確認 出席者10名、会議の成立を確認</p> <p>3. 会議録署名委員 小倉委員を指名</p> <p>4. 議 事</p> <p>≪議事案件①≫</p> <p>八王子市の生涯学習の振興方策について（諮問）</p> <p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進における課題 ・諮問に対する意見の整理 <p>・「読書のまち八王子推進計画」における、「子ども読書活動推進計画」・「生涯読書活動推進計画」のそれぞれの課題に対して意見をいただく。</p> <p style="text-align: right;">説明者： 川口図書館長 生涯学習センター図書館長</p> <p>1 子どもの読書活動推進における課題</p> <p>(1) 地域・家庭での子ども読書活動推進について</p> <p>会 長：読書活動推進・図書館の活用については今回の諮問内容の各項目とも密接に関わり、生涯学習プランにおいても重要な課題である。</p> <p>委 員：資料(2)―③「地域文書読書活動支援の充実」の具体的な活動内容とは。図書館のホームページに文庫連絡協議会のブログのリンクを載せられないかと考えている。本の紹介等をしているため活用していきたい。</p> <p>川口図書館長：具体的にはまだ決まっていないが、意見をいただいた中で検討していきたいと考える。</p> <p>委 員：読み聞かせの対象年齢は。また、ボランティアの養成研修会は外部から専門講師を招いているか。</p> <p>川口図書館長：原則小学生までを想定している。研修会は専門を招き、小学校等で読み聞かせができる人材の養成を目的としている。</p> <p>委 員：資料(1)―④「大学生サークルとの連携」とは、市内の大学に限定するか幅広く行うのか。</p> <p>川口図書館長：具体案はこれから検討する。八王子市の読書推進活動に対し協力を得られるのであれば連携したい。</p> <p>委 員：読書活動が必要である理由を示していかなければ、教師も行動しづらい。図書館のPRだけでなく、読書のメリットを伝えることも大切ではないか。</p> <p>川口図書館長：図書館事業のPRではなく、最終的には読書活動全体のPRであると考えている。八王子市として何をめざすかを明確に表現できものを考えていきたい。</p> <p>委 員：保護者が読書活動に対し、前向きに関わることを文中に載せてはどうか。</p> <p>会 長：一方で、現在保護者が読書活動に取り組んでいる割合の集計を取る必要があると考える。データ分析し、そのうえで計画</p>
--------------	---

を進めないと方向性を誤る恐れがある。

委員：図書館利用者の保護者は、必然的に子どもを連れてくるため、保護者の読書の関心は最重要と言える。ブックスタート以降、保護者に対し読書啓発する機会はあるか。

川口図書館長：読書感想文コンクールの際に、PTA に対して参加し読書の重要性を説明している。計画に盛り込む内容については今後検討する。

生涯学習センター図書館長：0 歳児のブックスタート事業開始以前から、3 歳児検診時に読み聞かせを行っている。現在は 0 歳で初めて本を渡すブックスタート、3 歳で保護者に対し読み聞かせの重要性を伝える。また、小学生になると、「図書館探検隊」「一日図書館体験」と事業展開している。さらに、南大沢図書館では 0～2 歳を対象に「ぴよぴよ絵本の時間」として、手遊びや読み聞かせを行っている。これらを整理して、新たな方法で啓発したいと考えている。

川口図書館長：保護者にそれを理解してもらえるよう検討する必要がある。

南大沢図書館長：幼稚園・保育園でも絵本の貸し出しや、保護者に対し意識付けを行っている。子どもころの支援が大人になった時の読書活動を豊かにすると考える。

委員：幼稚園等での読み聞かせ活動の実施割合は把握しているか。

南大沢図書館長：公立保育園では各支援を行っているが、私立保育園等での活動は現在把握していない。今後調査を進める。

(2) 学校図書館の充実と読書活動の推進

委員：資料中に「学校サポート事業」とあるが正確には「学校図書館サポート事業」あるため修正してほしい。(1)－⑤「中学校へのサポーター派遣」について、どのような点が難しいか。

川口図書館長：教師からは中学校の授業で使うことが難しいという声もある。

委員：教科により使える部分は多くあると思われる。積極的に授業で活用するよう取り組んでもらいたい。

南大沢図書館長：司書資格を有する教員がいるが、担任と掛け持ちであるため、司書としての業務ができないのが実情。現在は教育センターから図書館サポーターを派遣しアドバイスしている。学校によって受け止め方に差があるのも事実。

委員：図書館の活用方法を学ぶことができるのは学校図書館である。

委員：学校図書館サポーターの採用基準はあるか。中学校へのサポーター派遣が難しいことについて、関係しているか。

生涯学習センター図書館長：学校図書館司書、若しくは図書館司書の資格を持っていること、また、一人で複数校を受け持ち移動するため普通免許を持っていることである。

南大沢図書館長：小学校の場合、サポーターの指導により授業での活用や図書館の使い方などの取り組みに繋がりやすいが、中学校の場合は受験やクラブ活動で忙しく、教師も読書に対して重き

を置いていないことも見受けられる。

会 長：放課後に図書館を開放しても、生徒が来ないこともある。教師も授業の準備に追われ、図書館にすることが難しい。それをフォローする形で、サポーターのシステムが必要ではないかという提案もある。

委 員：読書活動の活性化について教師に対する PR も必要であると感じる。

川口図書館長：読書活動全体として、調べ学習など授業で多く活用できることを今後周知していく必要がある。

委 員：専任司書を配置については議論されたことがあるか。

生涯学習センター図書館長：現在は学校教育部指導課からサポーターを派遣している。読書活動推進全体として、幅広く考える必要がある。

会 長：このことについては、前回の読書のまち八王子推進連絡会議においても議論がなされた。理想は専任司書を置くことであるが、現状は予算との兼ね合いもある。教師だけではなく、様々な形で、司書資格を有している人材の活用について、学校教育部には検討課題として出している。

(3) 中高生の読書活動推進

委 員：本を魅力的に紹介するポップなど、学校図書館が楽しい空間になると生徒の関心も変わるのでは。読書が好きな生徒が企画し、専任司書や地域住民と、一緒に図書館をより良くするようになれば、生徒の目線で、使いやすく楽しい図書館ができるのではないか。

生涯学習センター図書館長：生徒が自主的に図書委員になり、図書館を作り上げていくためには、司書ボランティアなどとの連携・協力が必要である。計画に盛り込みたい。

委 員：南大沢小学校ではすでに行っている。読み聞かせも保護者が力をいれている。また中学校でも地域への開放を行っている。

会 長：住民協議会の取り組みは地域によって異なる。全体のレベルアップが求められる。

生涯学習センター図書館長：実際に活動している学校の調査を今後行っていく。

2. 生涯読書活動推進における課題

委 員：図書館の分室化の現在の進捗状況はどのくらいか。

生涯学習センター図書館長：現在ある北野分室に次いで、平成27年度に1か所分室化を予定している。現在はその2カ所であるが、図書館のサービス向上のためには分室化が必要であると考え。引き続き分室化を継続するとともに、地区図書室の充実化も図っていく。

委 員：地区図書室は図書館の傘下にないため、図書室ごとに運営が異なっている。地区図書室を充実させても、利用されない

いう懸念はないか。

生涯学習センター図書館長：現在も地区図書室で図書館の受け取りが可能であるが、受け取り回数や開室日数を増やすなど、利便性を向上させることを目指している。

会 長：例えば、利用者が地区図書室に図書館の本を返却した場合、図書館への送付が1週間に1度であると、その間は本の貸し出しができなくなる。ソフト・ハード含めての「充実化」と考えて良いか。

生涯学習センター図書館長：その通りである。

委 員：電子書籍の導入には費用がどのくらいかかるのか。

生涯学習センター図書館長：著作権の観点から保証料が含まれ、紙の本を購入するよりも費用がかかる。しかし、今後著作権法が改正されるなど、電子書籍の利用が一般化されることが見込まれる。その場合、利用者は来館せずに本が借りることができる。またデータ化されることで、保管場所を取らないというメリットがあることも考えたい。

副 会 長：電子化は八王子市独自の文献を守る為、またそれらを市民に公開するという面でも有益である。また、文字の拡大や読み上げ機能があり、今後、高齢者や障害者の読書スタイルが変わることも考えられる。大学生を講師とした、使い方講座を企画することもできる。今後は図書電子化を重視する必要があると考える。

委 員：図書館・学校図書館・地区図書室それぞれ管轄が異なっており、連携体制が不明。実際に図書館の現場を見学し、現状を知ることでより意見が出るのではないか。

会 長：事務局には是非検討していただきたい。

・ 読書活動推進以外の諮問内容について

説明者：事務局

1. 市民協働、市民主体の生涯学習の一層の推進

委 員：「NPOとの関わり方」とあるが、市民企画事業補助金の条件がととても厳しい。一団体当たりの補助額を下げ、より多くの市民・市民団体に機会を与えてもらいたい。

副 会 長：市民企画事業とは全事業費の半分を補助金として支給するものである。また、補助率は1年ごとに減少する仕組みであるが、最終的に市からの補助金に頼らず、市民・市民団体が自立し事業を行うことを意図としている。

生涯学習政策課長：市民活動推進部の事業であり、あくまでも市民・市民団体が自立し、事業を行うことを目的としている。生涯学習推進計画を作成するうえで、このような啓発的な事業が必要という意見であれば、答申に盛り込むことも可能である。

副 会 長：生涯学習に関する補助金制度を行うことは可能か。

生涯学習政策課長：これまでの流れから、補助金については縮小している傾向である。大きな理由がない限り実現は難しい。例えば、家庭教育でPTAに委託するような形で補助金を出している自治体も実際に存在する。特定の分野であれば可能性はあるかもしれない。

会 長：生涯学習に関する補助金制度を作るべきという、生涯学習審議会としての統一意見であれば、答申に盛り込む必要があると考える。その点についてはどのようにお考えか。

委 員：是非載せていただきたい。

委 員：事務局でも検討していただきたい。

委 員：講座ごとにチラシが配布されるが、講師プロフィールがわかりづらい。実際の内容と受講者期待する内容が一致するような手法を考えてほしい。

2. 自ら学ぶ力の養成

3. 学習成果を活かす制度の充実

4. 生涯学習振興のための教育施設等の活用策

生涯学習政策課長：生涯学習専用のホームページを開設していない。専用サイトを開設することで、各所管・施設で実施している事業の情報を市民が容易に取得できるようになる。

委 員：各施設・所管で講座を開催しているが、現在は部署ごとに調べなければいけない。各講座のテーマで検索できるようにするなどしたほうがいい。

会 長：専用サイトについては生涯学習審議会第1期から議論になっているが、現時点でまだ実現していない。改めて意見が出ているため是非検討していただきたい。

生涯学習政策課長：本来であれば、市の講座のみならず、大学や民間の講座・イベントもまとめることができるとなお良い。

会 長：学園都市センターでは、大学の講座情報が掲示されていることもあるが、大学側が貼ったものであり、市民はその場に行かなくては知ることができないというのが現状。様々な情報を一括に検索できるよう案をいただきたい。

委 員：前期審議会では、図書館に関する評価を行ったが、前回の評価内容を、第三期委員に配布を。公開しているか。

生涯学習センター図書館長：図書館のホームページで公開している。次回までに資料の準備をする。

委 員：子どもに対する体験型学習とはどのようなものか。

事務局：放課後子ども教室での地域の参加や、講座ではなく体験活動を行うなどを想定している。

生涯学習センター図書館長：図書館では1日図書館員や図書館探検など体験型学習をすでに行っている。

委 員：現在、無駄になっている梅林を活用した体験型学習を考えている。地域性を活かした実務的な生涯学習を行ったらどうか。

委 員：文化芸術の専門家と子どもが会うことは、驚きや感動に繋

がり地域に「すごい人」がいるということが、子どもにとって地域愛着に繋がるのではないか。地域のプロと出会える機会を与えてあげるのはどうか。民間で行うには限りがあり、多くの子どもの届けるためには、公が行うのが有効であると考え。どんな分野でも、レベルの高いものを子どもに見せる機会を作ってほしい。

委員：公立学校の開放について、地域運営学校をより啓発し、地域と学校の関わりを方策として織り込んでいただきたい。

委員：コミュニティスクールについてもより周知したい。市としてどのようなコミュニティスクールを目指すかを示していただきたい。

生涯学習政策課長：学校開放については各校により状況が異なり、セキュリティの問題などハード面でも考えていかななくてはならない。

事務局：市の基本計画『八王子ビジョン2022』に「地域と繋がる学校づくり」とあるように、学校支援がすべてではないが、大きなテーマになっている。次回審議会までに、さらにご意見いただきたい。

委員：コミュニティスクールの全国調査では地域運営学校の指定校でありながら、実態を理解している保護者が半数以下であり、それ以外の学校の保護者や地域住民は知らないのではないか。生涯学習の場で子どもの教育を啓発する講座を地域住民に対して行うことが必要ではないかと考える。

会長：このことについては、次回会議までに事務局まで意見を。次回は2月19日(火)午後6時から生涯学習センターにて開催する。詳細は別途事務局より通知をする。本日の会議は以上をもって終了する。

5. 閉 会 (午後9時00分)

上会議録は事実と相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員